

高圧噴射攪拌工法

スラリー状にした固化材を超高圧（20～40Mpa）にし地中に噴射、切削攪拌し、コラム状改良体を造成する工法です。ボーリングマシンを基本にしたコンパクトな施工機械を駆使し、軟弱な粘性土や砂質土、ヘドロなどの土質を確実に改良することができます。

ESJ工法

特殊モニターの先端部からスラリーを高圧噴射。地盤を切削、攪拌し、固化する工法です。大口径改良体ならではのさまざまなメリットが、これからの地盤改良事業の形を提案します。モニターの性能やパワースケール、工法の内容に応じて、5つのタイプがあります。

- コンパクトな施工機械で大口径の改良体を造成
- 大きい改良径が施工能率を高めトータルコストを削減
- 軟弱な粘性土、砂質土、ヘドロ、腐植土などを確実に改良
- 改良体と改良体、土止め壁と改良体の密着施工も容易
- 高い止水性を確保
- 無機質のセメント系固化材使用による長期安定性を確保
- エアを使用しないタイプでは河川等で施工が可能

